

「信じる—見えないものに目を注ぐ」

聖句「わたしたちは見えるものではなく、—コリントの信徒への手紙
見えないものに目を注ぎます」 II 4章18節—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会
2011年2月10日
第121号

テーマ〈愛の種を蒔く〉

宮の台幼稚園

園長 笹野 信治



聖句

『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、あなたの愛を自分の愛に注ぎなさい。』
(ルカによる福音書第10章27節)

ある日、保護者のお母さんから「今日、子どもが幼稚園の礼拝で『神さまはみんなを愛してください』と聞かれ、難しい質問なのでどう答えて良いか困ってしまいました。」と話してくれました。その子が幼稚園の礼拝の話をしっかりと聞いて家で話してくれたことに感謝し、とても嬉しい気持ちになりました。また、同時に子どもたちの心に届く話をしていかななくてはならないと思われました。

今年に入っても何回も、ニュースで子どもの虐待について報じられています。虐待を受けた子どもが亡くなるというケースもあります。ある研修会で、ある都市の虐待防止センターの所長であり医師でもある方から、子どもの虐待についての話を伺い、目や耳を覆いたくなるような悲惨な虐待の現状が報告されました。その中で、アメリカでは、長期間をかけて専門家による虐待に関する調査が行われていて、それによると、子どもの頃に虐待を受けた経験のある人のうち数十%の人が、やがて自分が親になると自分が虐待を受けたように、子どもに対して虐待をしようとするのだそうです。そのことを詳しく調べると、親から虐待を受けた経験があっても、成長の過程で、学校の先生や周りの人からとても大事にされ、愛されたという経験を持つている人は、我が子にも虐待をしないのだという話を聞きました。

「自分を愛する」には、「自分が愛されて育った」という経験が必要で、愛されて育った人は、人をも愛せるということなのです。幼少期における経験や体験が、人間としての人格形成に大きく影響を与えているといわれています。私たちの保育者の仕事は、人を育てるといふことです。そのためには、ただ単に知識を教えるというだけではなく、子ども一人ひとりに深い愛情を持って寄り添い、接していくことが大切です。

「自分を愛する」には、「自分が愛されて育った」という経験が必要で、愛されて育った人は、人をも愛せるということなのです。幼少期における経験や体験が、人間としての人格形成に大きく影響を与えているといわれています。私たちの保育者の仕事は、人を育てるといふことです。そのためには、ただ単に知識を教えるというだけではなく、子ども一人ひとりに深い愛情を持って寄り添い、接していくことが大切です。

イエスキリストは、ユダヤの人々からは、罪人（つみびと）と見られていた上で、「今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」と優しい眼差しでおっしゃったのでした。そのように言われたザアカイは、「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」（ルカ19：8）と言って、喜んでイエスを迎えました。イエス様は、今も生きて働き、ザアカイに接したように、いつも私たちに寄り添ってくださいます。

《テーマ》

被災された方々への想い
〜クリスマスに向けて〜

想い合う心

川崎頌和幼稚園

高橋 香織

「また会おうね!」

そう言って彼女たちと分かれて、私は横浜へ帰ってきた・・・

私はこの夏、ある団体のボランティア活動に参加した。目的は、「被災地の子ども達と遊び、楽しい夏休みの時を一緒に過ごす。」というものだった。

自分が幼稚園教諭だから選んだテーマではない。たまたま私が行ける日程とそのテーマが合っただけだ。きつと得意分野を活かすようにと、神さまがなさったことなのだろう。

最終日に気仙沼の仮設住宅にある集会所で会を開いた。映画鑑賞というプログラムがあったが、子ども達は遊びたくてしょうがない様子。急遽、プログラムを変更し、鬼ごっこやイスとりゲームなどをした。幼稚園から小学生までの子ども達が「きゃあ、きゃあ。」と言って遊んだ。そこに住んでいらっしやる方から、

「この夏、子ども達のおんなに大きな笑い声を聞いたのは初めてだ。」と聞いた。

先日、園の子ども達にこの時の話をした。みんな真剣に聞いていた。そして彼らは何かを感じていた。私は、伝えなければどうやって知ることが出来るだろうか、と伝えることの大切さを感じた。もうすぐクリスマス。ひとつの大きな愛が生まれた日。自分たちの楽しみだけでなく、誰かを想い、相手のために祈る時としたい、と思いがながら過ごしている。

暗闇の中の光を待ち望んで祈る時

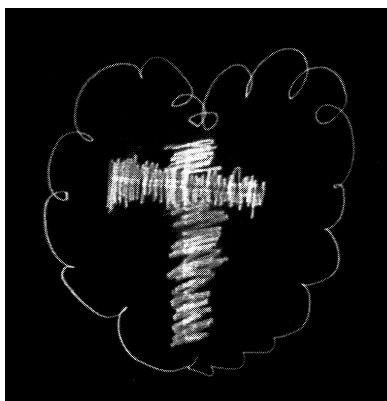
みくに幼稚園

園長 國尾 雪

もうすぐアドヴェントのろうそくが灯る季節を迎えます。今年日本中が特別な思いでクリスマスを迎える事でしょう。この4月、当園の母体である藤沢教会では、三年間CS校長や幼稚園のスタッフとして子ども達とも深く関わって下さっていた上竹裕子伝道師を福島県いわき市の磐城教会へ牧師として送り出すことが決まっています。しかしあの3月の自然災害、その後の人的災害により赴任準備が予定通りには進まず若い上竹先生を送り出すことに不安を覚えるなか、召命感を持ち被災地での伝道に4月より歩み出された先生の為に皆が祈りを合わせ応援する事となりました。みくに幼稚園でも自然と同じ敷地内にある清風幼稚園のことを憶え、交流を持つことで被災された方々との繋がりを持たせて頂いています。子ども達のお手紙のやりとりから藤沢のどんぐりを送ったり、子ども達が焼いたクッキーの収益や保護者会主催のバザー収益の1/3を「子ども達の笑顔のために」と送ったり、教区の報告会のために来訪された上竹先生からスライドを交えて現在の幼稚園の

様子を伝えて頂いたりと交流が深まっています。

清風幼稚園では国の援助が遅れていたため早くから自主的に除染のため土を削り遊具等を高圧洗浄し、新たな土を入れる事で福島県内でも数少ない短時間でも外遊びの時間の持てる園となつていますが、教会と合わせ900坪の広い敷地内では放射線量の高い場所もあり、夏には被災地ボランティア活動の合い間を縫って草むしり、木の伐採等のお手伝いもしました。それでも今なお木陰の放射能値の懸念から大切に育てた桜の木や柘榴など実のなる木もすべて伐採している所、たさうです。まだ先の見えない中、主に祈りつつ出来ることを精一杯行なっている被災地の方々を憶え、これからも子ども達と共に私たちの出来ることを考え祈りながらクリスマスを迎えたいと思えます。



ノアの洪水

高見保育園

園長 小川富美枝

子育て広場に集まっていた親子に期せずして「ノアの洪水」の話をした3時間後、あの未曾有の大惨事、知れば知る程、言葉もなかった。

その日はお誕生日会、余震の続く中、園庭でケーキを頼張りながら、お迎えを待った。交通麻痺。

夕闇の中、エルサレムキャンドルを囲んで「昔、昔はね、何千年も電気はなかったの」普段できない学びをした。電気が発明されて、たかが百年足らず。この間に、人間は開けてはならないパンドラの箱を開けてしまったのか。夜中の2時半、最後の姉弟のお迎え。自然災害の前に、文明の利器は何ともろいものでしょう。19階迄、階段を登り、送った。

被災地へ物資を届けるという人の応援に、一日の内に車に詰め込めない程の物資が、元お母様達の協力が集まり、義援金も有志や職員達で送ることができた。ノアの洪水と重なり人事とは思えず、「何とかこの目を見てみたい」と思っていたら、「コヤマックス」の若者達と共に、小湊、女川へ河井ノアさんの絵本や山元加

津子さんの本、星野富弘さんのカレンダー等、園児の親達や「三五館」の社長さんの温かい心と共に、持つて行くことができた。

「すこやかに育て心と体」この看板だけが無傷で屋上に。その学校は：焼けただけ：

しかし、いつの時代も子供達は希望です。ふと立ち寄った女川のコンテナ村で子供達が絵を描いていた。絵の好きな魚屋のおじさんから、震災前の十数枚の絵を頂き、園に飾っています。犠牲となった2万人の人達のために、灯りをともしましよう。この神奈川の地、神奈川部会からも。

クリスマスを前に：

野毛山幼稚園

酒井大志

街ではクリスマスのイルミネーションで賑わっていますが、被災地の様子はどうか：寒さの中、温かい部屋で過ごしているだろうか：心配しています。東日本大震災から九か月。日々祈り、自分には何ができるのかを問い続ける九か月でした。

本園・母教会では「ひとりの小さな手プロジェクト」を立ち上げ、活動しています。ミュージシャンの方、

歌の大好きな保護者で結成しているゴスペルサークルのチャリティーコンサート、手芸の大好きな保護者のサークルでは手作り品の販売のチャリティーをしました。みんなが「自分のできることで被災地の方々の力になりたい」と願っていることに気付かされました。

先日、たくさんの昆布が送られてきました。被災地の支援グループの方が「横浜の子どもたちに、安全な昆布を」と昨年収穫した昆布を送ってくださったのです。ご自身も被災され、苦しい生活を余儀なくされている中、遠い私たちのことを思ってくださったことに感動しました。子どもたちにもそのことを伝え、「とても嬉しいね」と分かち合い、各家庭に持って帰りました。自分の利益や損得ばかりを気にする世の中、困難な状況の中で相手を思いやる被災地の方々の姿に教えられることが多くあります。

アドヴェントに入り、子どもたちはクリスマスはもちろん、日曜の夕方に行われる燭火礼拝とくるみ割り人形のコンサートを楽しみにしています。今年は、くるみ割り人形の献金入れを作り、クリスマスの喜びを分かち合うためにその献金入れに被災地の方々への思いをためるようになっています。

クリスマス喜びと希望の光が被災地の方々をはじめ多くの方の心の中に訪れることを祈って：

講演会に参加して

講演会に参加して

白百合幼児学園

田尾恵里

新しいクリスマスの歌・行事の歌をテーマに石川正信先生から、音楽の楽しさやリズムの大切さを教えて頂きました。リズムのある曲だけでなく静かな曲もあるなかで、石川先生の伴奏だけでなく、歌声もとても素晴らしく感動しました。

ギターを弾きながら、一緒に手拍子をして歌を唄いました。会堂全体に先生方の声が響きわたりとでもきれいでした。

手話がついた讃美歌を教えてくださいななかで、平和というのには両手を握ったあと、手を横に広げる手話でしたが、石川先生が心を一定に保ち、

争いのない事が、本当の平和と、おっしゃる言葉が心に残り考えさせられました。またその中で神様は私達だけでなく全ての人間を心から愛しておられる、心の広い方である事を子ども達と共に感謝をして日々過ごしたいです。

東北での地震、原発事故で多くの方が悲しみ、辛いといった複雑であるなりに、音楽は心を癒し、支えるだけでなく希望へとつながるのではないかと思いました。

音楽を通して伝えること

のぞみ幼稚園

薄井理恵

すてきな音楽とともに礼拝がはじまり、石川正信先生が作詞・作曲された「主の平和」・「被災地への祈り」という歌を歌いました。祈りの大切さを感じさせられる歌詞と優しいメロディーの伴奏で、被災地の方々のことを覚え、神聖な気持ちにされるような礼拝でした。

講演会でも石川先生が作られた歌に参加者の皆様と声を合わせて、たくさん歌うことができ、とても楽しいひとときでした。先生は、音楽は表現、ピアノで伴奏する際、楽譜に書か

れた表面だけを伝えるのではなく、内側にある感情を外に出していくことが大切、とお話されていました。確かに、今回の礼拝から思い返すと、はじめて歌う歌も自然と気持ちを入れて歌っていたことに気付かされました。そして、このように子ども達の感性も伸ばしていかれるのだと感じました。表現をすることが苦手な私ではありますが、音楽を通して伝えることがあることを心に留めて、気持ちを込めて伴奏していかなるよう努めていこうと思いました。



役員会報告

書記 奈良昌人

役員会は七月二十七日(水)、九月二十日(水)、十一月四日(金)に開催されました。主なことを報告いたします。

ます。

◆第四十四回夏期講習会を終えて

八月二十三日(火) 二三五五人(講師・カメラマン含む)の参加で関東学院大学にて行われました。ノート

ルダム清心学園理事長渡辺和子先生の講演を伺い、昼食後は福島県南相

馬市原町の原町聖愛保育園から講師

としてお招きした山内元子先生、青

田みゆき先生、荒一実先生より、緊急

時避難準備区域にある保育園として

の現状が報告され、一同祈りといっ

そうの支援を確認いたしました。そ

の後、ジョン・チャヌ(丁讀字)氏の

ヴァイオリンコンサートが行われ、

チャヌ氏の信仰の証を交えたヴァ

イオリンの調べに、主の恵みの大き

さを思い心満たされました。

◆第二回講演会は十一月十六日(水)

松沢教会聖歌隊長・オルガニスト石

川正信氏より「新しいクリスマス

の歌・行事の歌」音楽を用いた賛

美」のテーマで開催されました。

◆クリスマス礼拝は二月七日(水)

清水ヶ丘教会にて日本バプテスト同

盟捜真教会森島恵先生の説教により

行われます。

◆第八十三回キリスト教保育連盟夏期講習会について

二〇一二年七月二十六日(木)〜二

十八日(土)にパシフィコ横浜、ヨコハマグランドインタールコンチネンタルホテルにて開催される予定です。神奈川部会には、部会アワーの内容、各分科会講師推薦、礼拝奉仕者について依頼があり、検討を始めました。

◆園長・設置者・主任研修会
二〇一二年一月八日(日)〜九日(月)に大磯プリンスホテルにて開催されました。

編集後記

神様の祝福の中、新しい年が始まりました。皆様はどんな想いで2012年を迎えられたでしょうか。もうすぐあの3・11から1年。祈りと共に歩んで行きました。貴重な原稿をお寄せ下さる園の先生方に感謝致します。

発行日 二〇一二年二月十日

印刷所 樋口タイプ印刷

編集者 神奈川部会 広報担当

片瀬のぞみ幼稚園 草ヶ谷 弘子
のぞみ幼稚園 藤田 希恵子